

## 2013 年度入学時アンケートの結果（報告）

FD 委員会

### I. アンケートの概要

2013 年 5 月～6 月に 1 年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、東北福祉大学入学前に重視した内容についての項目 35 項目、学部・学科の志望順位各 1 項目、アドミッションポリシーの参考度についての項目 1 項目、学科ウェブサイト閲覧及び影響度についての項目 3 項目、入学後の不安内容についての項目 7 項目、入学後の生活上の不安についての調査する項目 9 項目、学内の相談相手についての項目 9 項目、卒業後の希望進路についての項目 10 項目より構成。420 名の回答が得られた（回答率 30.6%）。

### II. 全体の傾向

#### 1. 回答者の属性

回答者の総数、学科構成、性別、入試形態、居住形態、部活動・アルバイト・ボランティアの実施状況を表 1-1、表 1-2 に示す。

	人数	設問2 性別		設問3 入試			設問4 居住形態	
		男性	女性	A0	推薦	一般	自宅	自宅以外
<b>全学</b>	<b>420</b>	<b>120</b>	<b>300</b>	<b>37</b>	<b>129</b>	<b>254</b>	<b>219</b>	<b>201</b>
	%	28.60%	71.40%	8.80%	30.70%	60.50%	52.10%	47.90%
社会福祉学科	128	28	100	10	46	72	61	67
	%	21.90%	78.10%	7.80%	35.90%	56.30%	47.70%	52.30%
社会教育学科	29	18	11	4	6	19	16	13
	%	62.10%	37.90%	13.80%	20.70%	65.50%	55.20%	44.80%
福祉心理学科	49	11	38	7	14	28	26	23
	%	22.40%	77.60%	14.30%	28.60%	57.10%	53.10%	46.90%
産業福祉マネジメント学科	35	12	23	1	12	22	22	13
	%	34.30%	65.70%	2.90%	34.30%	62.90%	62.90%	37.10%
情報福祉マネジメント学科	25	18	7	1	6	18	15	10
	%	72.00%	28.00%	4.00%	24.00%	72.00%	60.00%	40.00%
子ども教育学科	61	10	51	6	17	38	29	32
	%	16.40%	83.60%	9.80%	27.90%	62.30%	47.50%	52.50%
保健看護学科	24	3	21	2	8	14	13	11
	%	12.50%	87.50%	8.30%	33.30%	58.30%	54.20%	45.80%
リハビリテーション学科	40	14	26	2	11	27	21	19
	%	35.00%	65.00%	5.00%	27.50%	67.50%	52.50%	47.50%
医療経営管理学科	29	6	23	4	9	16	16	13
	%	20.70%	79.30%	13.80%	31.00%	55.20%	55.20%	44.80%



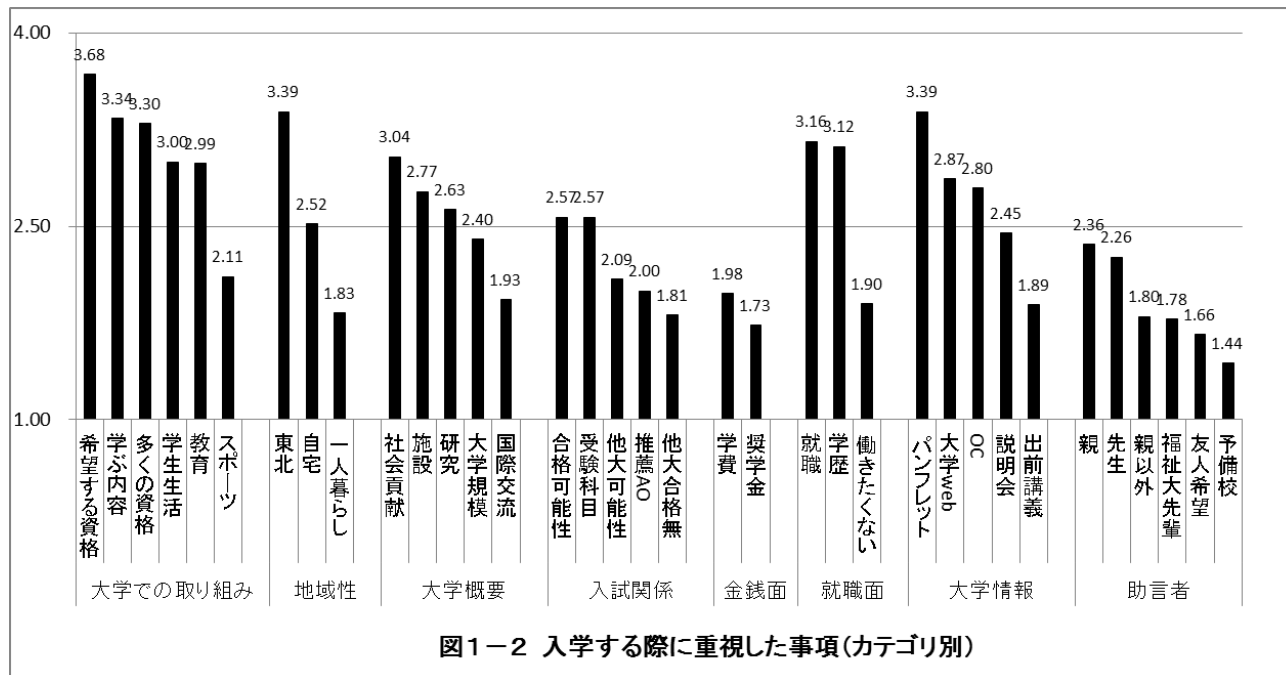
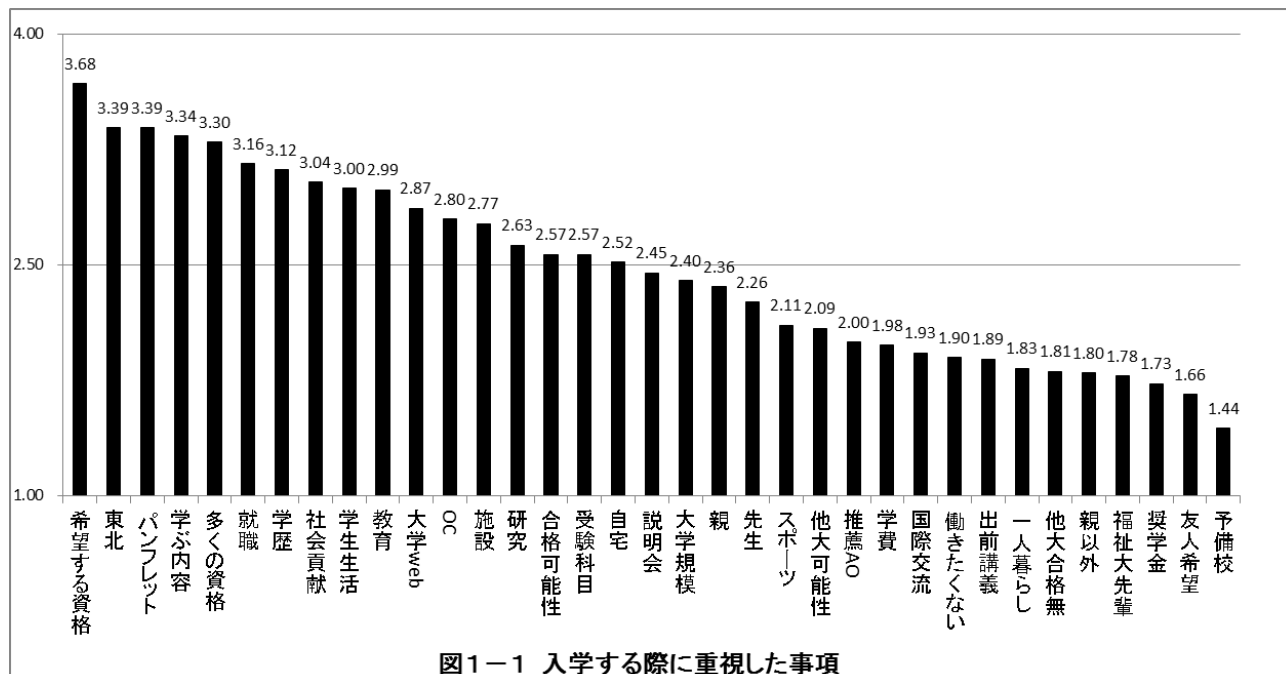
## 2. 入学前の重視事項

調査項目と本報告書での表記の対応、及び各項目の重視度の平均値を表2に示す。これらの項目の回答形式は、「とても重要だった」から「まったく重要ではなかった」までの4件法であり、得点が高いほど重視していたことを示す。

項目内容	表記	全学平均
親に勧められた	親	2.36
親以外の親族・親戚から東北福祉大学への進学を勧められた	親以外	1.80
高校の先生に勧められた	先生	2.26
東北福祉大学に進学した(していた)先輩から勧められた	福祉大先輩	1.78
周りの友達が東北福祉大学に進学を希望した	友人希望	1.66
予備校や塾で勧められた	予備校	1.44
すぐに働きたくないと思った	働きたくない	1.90
学生生活を楽しむことができそうだった	学生生活	3.00
大卒の学歴を得たいと考えた	学歴	3.12
希望する専門的資格・免許等を取得できると思った	希望する資格	3.68
多くの資格・免許等を取得できると思った	多くの資格	3.30
東北にある大学である	東北	3.39
自宅から通学できる	自宅	2.52
ひとり暮らしができる	一人暮らし	1.83
東北福祉大学に入学すれば奨学金が支給される	奨学金	1.73
学費が適当な額だった	学費	1.98
卒業生の就職率や就職先がよかった	就職	3.16
東北福祉大学の付属施設が充実していた	施設	2.77
東北福祉大学で学ぶ内容に興味があった	学ぶ内容	3.34
東北福祉大学の研究に魅力を感じた	研究	2.63
東北福祉大学の教育に魅力を感じた	教育	2.99
東北福祉大学の社会貢献・地域貢献の活動(ボランティア活動を含む)に魅力を感じた	社会貢献	3.04
東北福祉大学のスポーツ活動に魅力を感じた	スポーツ	2.11
東北福祉大学の留学や海外研修、国際交流に魅力を感じた	国際交流	1.93
東北福祉大学の規模(学生数やキャンパスの広さ等)が適当であった	大学規模	2.40
東北福祉大学の合格可能性が高かった	合格可能性	2.57
他大学の合格可能性が低かった	他大可能性	2.09
東北福祉大学以外に合格した大学がなかった	他大合格無	1.81
受験の際に入試科目が自分に合っていると考えた	受験科目	2.57
推薦入試、AO入試などで入学が早く決まった	推薦AO	2.00
東北福祉大学のウェブサイトを見た	大学web	2.87
東北福祉大学の教員による講義を受けた(出前講義、高大連携授業など)	出前講義	1.89
本学説明会、進学相談会に参加した	説明会	2.45
「With You」などのパンフレットを見た	パンフレット	3.39
オープンキャンパスに参加した	OC	2.80
回答形式:とても重要だった(4)～まったく重要ではなかった(2)の4件法		

重視度の高い順に項目を並べてまとめたのが図1-1である。また、項目を内容別に整理し、さらに重視度の高さで整理したものが図1-2である。

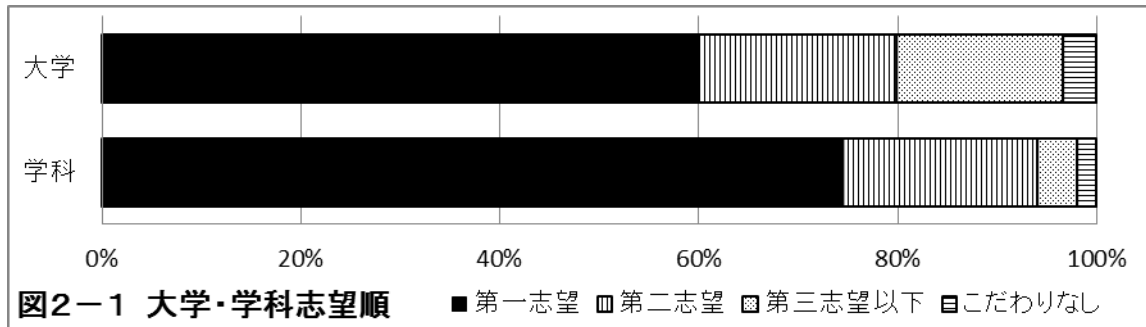
これらより、特に入学前の検討段階で特に重視されていたのは、「大学での取り組み」における「資格、教育内容」、「地域性」における「東北にある大学である事」、「大学概要」における「社会貢献」、「就職」における「卒業者の就職率、大学卒という学歴」、「大学情報」における「パンフレット」であることが示された。一方で「助言者」「金銭面」は比較的どの項目も重視されていないことが明らかとなった。



### 3. 学部・学科志望順位

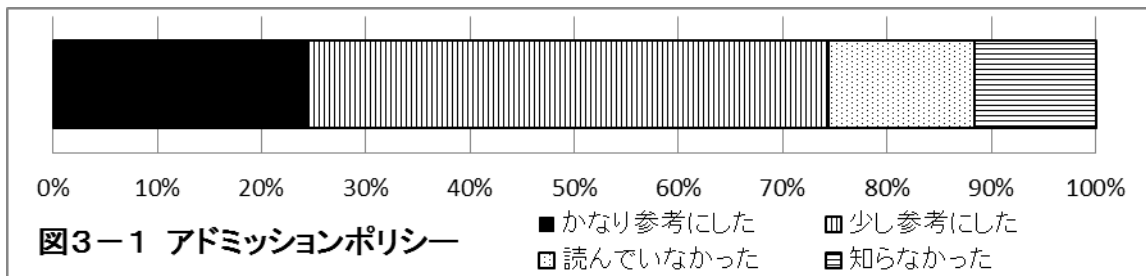
大学と学科の志望順位を図 2-1 に示す。

大学の志望順位では 6 割程度が第 1 志望であることが示された。ただし、「第 3 志望以下」及び「学部へのこだわりがなかった」者を併せると 2 割程度にのぼることも同時に示された。学科の志望順位ではその割合は 1 割程度となり、第 1・第 2 志望を併せると 9 割程度となることが示された。

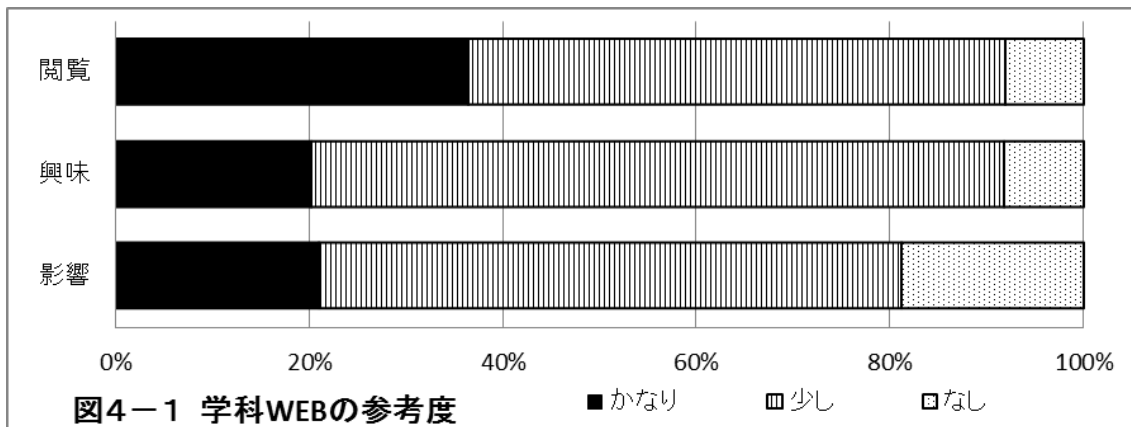


### 4. 大学・学科情報の参考度

本学のアドミッションポリシーの参考度についての回答を図 3-1 にまとめた。かなり参考にした者が 3 割程度であり、「かなり、少し」をまとめると 7 割程度が参考にしたと回答していることが明らかとなった。また、アドミッションポリシーの存在を知らなかったものも 1 割程度存在することも明らかとなった。

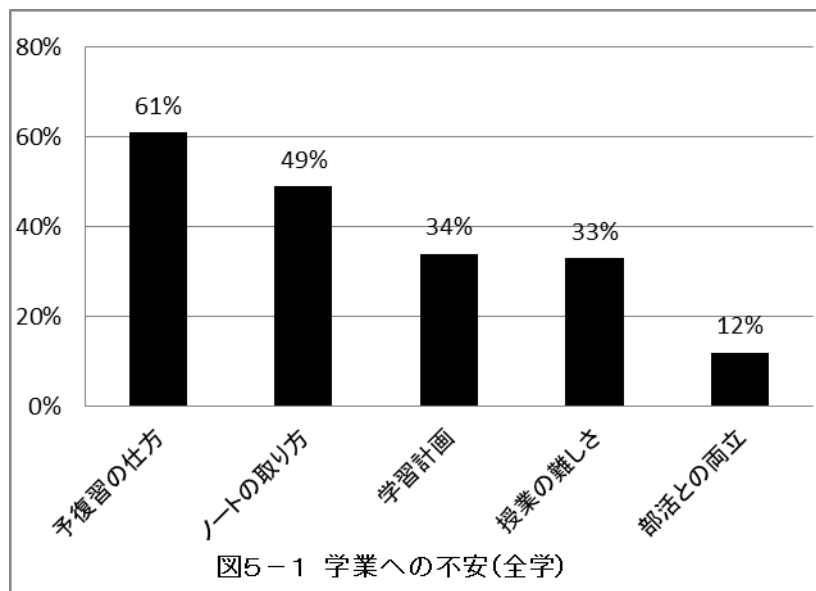


学科ウェブサイトの参考度について図 4-1 にまとめた。なお、「興味」「影響」の項は「閲覧」の項目で「見ていない」と回答した者を除いて集計している。これより、ウェブサイトを見ていない者は 1 割程度にとどまることが明らかとなり、4 割弱がかなりよく見ていたことが明らかとなった。興味度については、およそ 2 割が「かなり興味をもった」と答えたものの、回答の大半は「少し」という程度であることが示された。影響度についても興味度と同様であり、特に「影響を受けなかった」と回答した者が 2 割程度であることが示された。



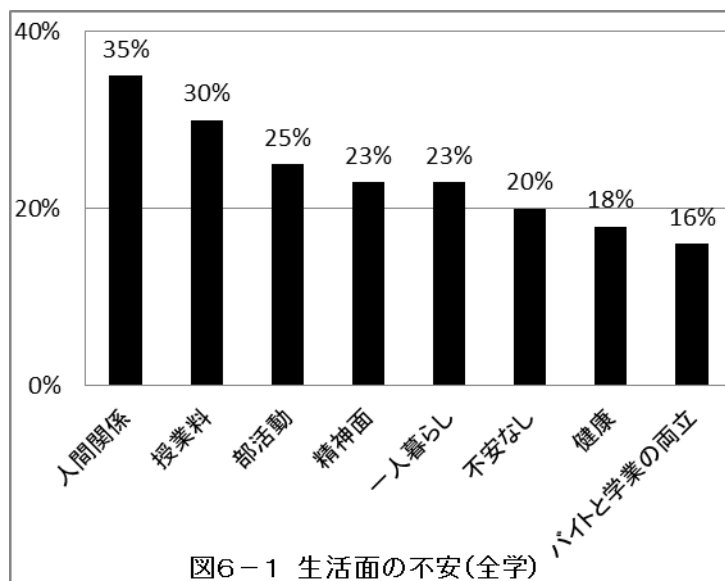
## 5. 入学後の学業に対する不安について

学業不安について、7項目それぞれについて「あてはまる、あてはまらない」の2択で回答を求め、かつ複数回答可として調査した。以下に示す結果は、1項目ずつの選択率(「あてはまる」と回答した割合)を示している。図5-1には全学での結果まとめた。これより、特に「予習復習の仕方」について不安を抱くものが多いことが示されており、次いで「ノートの取り方」となった。



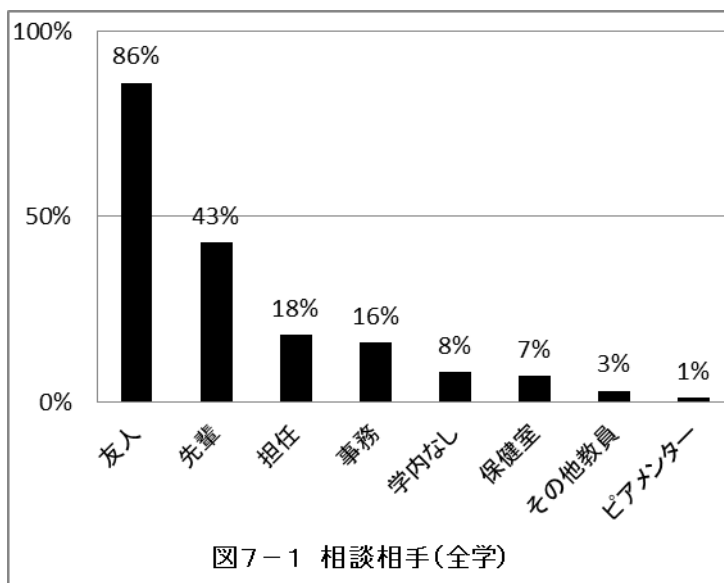
## 6. 入学後の生活面での不安について

生活面での不安について、8項目それぞれについて「あてはまる、あてはまらない」の2択で回答を求め、かつ複数回答可として調査した。以下に示す結果は、1項目ずつの選択率(「あてはまる」と回答した割合)を示している。図6-1には全学での結果をまとめた。学業面での不安と異なり、半数以上が選択した項目は認められなかったが、その中でも「人間関係」が最も多く選択されていたことが明らかとなった。次いで「精神面」「授業料」となっていた。また、「不安なし」と答える者は学業不安よりも多く、2割程度であることも明らかとなった。



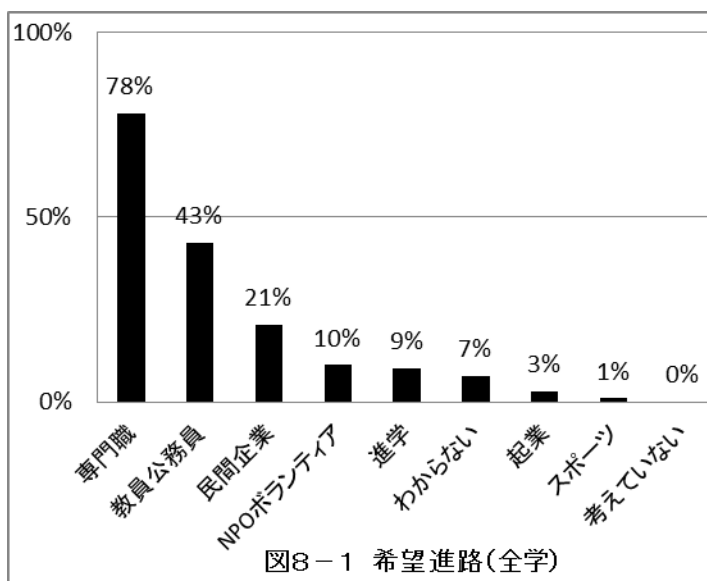
## 7. 学内での相談相手について

学内の相談相手として8項目それぞれについて「あてはまる、あてはまらない」の2択で回答を求め、かつ複数回答可として調査した。以下に示す結果は、1項目ずつの選択率(「あてはまる」と回答した割合)を示している。図7-1には全学での結果をまとめた。最も相談相手として選択されているのは「友人」であり、次いで「先輩」「リエゾンゼミ I の担任」の順となっていた。ただし本項目は「友人」「先輩」という相談相手のカテゴリを問う形式であるので、実際の相談人数とは対応しないことには注意したい。また、「学内に相談相手がいない」と答えた者も1割程度いることも明らかとなった。



## 8. 卒業後に希望する進路について

卒業後の進路として9項目それぞれについて「あてはまる、あてはまらない」の2択で回答を求め、かつ複数回答可として調査した。以下に示す結果は、1項目ずつの選択率(「あてはまる」と回答した割合)を示している。図8-1には全学での結果をまとめた。「専門職」の希望が最も多いことが全学的な傾向であることが明らかとなっており、次いで、「教員公務員」「民間企業」となっていた。また、「考えていない」という者はほとんど見られなかったが、「わからない」と回答した者がおよそ1割程度いることも明らかとなった。



### 9. 基本属性と不安・相談相手との関連

学業面での不安、生活面での不安、相談相手の各項目と統計的に有意に関連がみられた属性は、表3に示す通り通りであった。まず性別において、女性のほうが男性よりも学業・生活両面で不安を持ちやすい傾向が示された。また、部・サークル活動については、調査時点で加入していない者が「両立」に関わる不安がないことは当然の結果であるわけだが、この加入していない者は「先輩」という相談相手を持ちづらいということが示されたと言えよう。また、アルバイト・ボランティア活動の項からは、それらの取り組みをしている者の方が「友人」を相談相手として選択することが示されており、先の部活動・サークル活動の結果と併せると、課外活動を行っている者ほど特に生活面での不安を抱えやすくなる可能性もあるが、友人・先輩といった同年代の身近な他者を相談相手としてより活用しているという傾向が示されたと言えよう。

	性別	入試形態	居住形態	部・サークル活動	アルバイト	ボランティア活動
学業不安	授業の難しさ	一般<推薦				
	ノートの取り方					
	学習計画					
	予復習の仕方	男性<女性				
	部活との両立			加入しない<体育会		
生活不安	人間関係	男性<女性				
	精神面					
	健康					
	一人暮らし				これからしていない<している	
	バイトと学業の両立	男性<女性		加入しない<文化会、同好会	していない<これから<している	
相談相手	授業料					
	部活動・サークル活動	男性<女性		加入しない<文化会		
	友人				していない<これから<している	しない<する
	先輩		自宅<自宅以外	加入しない<体育会、文化会、同好会		
	大学関係者*					

\*担任・教員・保健室・事務という4項目を再コード化した

### 10. 不安と相談相手との関連

学業面での不安、生活面での不安と統計的に有意に関連がみられた相談相手は、表4に示す通りであった。大きく2つの傾向が示された。まず「人間関係」「精神面」での不安については、友人や先輩といった同年代他者を相談相手として選択しない者が抱えやすい不安であることが示された。これらの不安は「他者に相談しづらい不安」であるとみなすことができるだろう。反面、「授業のむずかしさ」「予習復習の仕方」は「他者に相談しやすい不安」ということができ、不安を抱えた者が「大学関係者」（教員、事務含む）や友人に相談し解決しようとしていることが示されたといえよう。

	友人	先輩	大学関係者
学業不安	授業の難しさ		選択せず<選択
	ノートの取り方		
	学習計画		
	予復習の仕方	選択せず<選択	
	部活との両立		
生活不安	人間関係	選択<選択せず	
	精神面	選択<選択せず	選択<選択せず
	健康		
	一人暮らし		
	バイトと学業の両立		
	授業料		選択せず<選択
	部活動・サークル活動		



## 11. 不安と希望進路との関連

学業面での不安、生活面での不安と統計的に有意に関連がみられた希望進路手は、表4に示す通り通りであった。なお、希望進路については、全学的に選択率の高かった「専門職」「民間企業」「教員公務員」の3項目に、「わからない」を加えた4項目とした。

特に部活動やアルバイトと学業の「両立」に関する不安について、専門職・民間企業を志望する者が不安を抱えていることが示された。また、将来の希望進路がわからないと回答する者が、特に「人間関係」「精神面」での不安を抱えていることが示された。

		専門職	民間企業	教員公務員	わからない
	授業の難しさ			希望<希望せず	
	ノートの取り方				
学業不安	学習計画				
	予復習の仕方				
	部活との両立	希望せず<希望	希望せず<希望		
	人間関係	希望<希望せず			選択せず<選択
	精神面				選択せず<選択
	健康				
生活不安	一人暮らし				
	バイトと学業の両立		希望せず<希望		
	授業料				
	部活動・サークル活動				選択せず<選択